

5. 里山ORC関連講義の紹介

(1) 共同開講科目特別講義

① 共同開講科目特別講義

「里山学入門－地域の自然と文化－」の開講（2005前期・瀬田）

宮浦富保・鈴木滋

概要

2005年度前期の瀬田学舎共同開講科目特別講義として、「里山学入門」を開講した。この講義では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、里山ORCのスタッフを中心とする学内外の教員が講義を行った。講義は月曜日の2講時に開講した。

4月30日には、教室内での講義の終了後、瀬田隣接地（龍谷の森）において春の植物観察を中心とする野外実習を行った。7月9日にも野外実習を予定していたが、雨天のために中止とし、有志数名により、龍谷の森の近くにお住まいの南部義彦氏宅を訪ね、この地域の自然、環境、人々の暮らしなどについて、南部氏の経験をお話いただいた。

この科目は瀬田学舎の各学部のみならず、環琵琶湖大学連携単位互換制度および大学コンソーシアム京都単位互換制度により、広く受講者を受け入れた。2005年度の受講者は153名であり、理工学部9名、社会学部47名、国際文化学部90名、京都芸術大学（コンソーシアム京都）3名、立命館大学（環琵琶湖）4名という内訳であった。

講義内容

4/11（月）宮浦富保（龍谷大学理工学部） 「森と人のかかわり」

人は森林とどのようにかかわってきたのか。日本における歴史を概観する。そして、日本における森林とのかかわりの現状を説明し、問題点と解決の方向性について考える。

4/18（月）丸山徳次（龍谷大学文学部） 「里山の環境倫理」

環境倫理学は、1970年前後からアメリカを中心に展開されてきた哲学的努力の一つです。この環境倫理学が何をどのように議論してきたのかを、まず簡単に振り返り、日本における里山に関わった環境倫理の独自性について説明します。あわせて、「里山学」の提唱者としての私が、「里山学」によって何を考えようとしているのかを、わかりやすく話したいと思います。

4/25 (月) 阪本寧男 (京都大学名誉教授) 「里山の民族植物学」

まず始めに、「民族植物学」とは植物と人との多様な関わり合いを探る植物学の一分野であることを説明する。ついで、里山に生育する様々な植物と人との関わり合いを、薪炭用、生活用具用、山菜用、薬用、儀礼用、などについて植物標本を示しつつ具体的に解説する。最後に、里山で生まれそこで生活した経験をふまえ、とくに里山に生える植物と子供の四季の遊びの文化との関わり合いを詳しく述べたい。

4/30 (土) 龍口明生 (龍谷大学文学部) 「アランニヤ (森) と仏教」

仏教が里山と一体どのような関係があるのか? と訝しく思われることであろう。もっともな疑問である。ところがアランニヤ (aranya (阿蘭若・阿練若等と音訳され、山林・山澤・閑寂處・空閑處等と意識される。)) と仏教とは、特に古い時代には深い関連を有しており、出家者達の修行の場であり住居地でもあった。そこは適度に人家から離れており、近隣住人が薪を取りに行く場でもあった。まさしく「里山」のイメージに近い空間である。

5/16 (月) 江南和幸 (龍谷大学理工学部) 「草木国土悉皆成仏 (里山の命と暮らし)」

5/23 (月) 谷垣岳人 (京都大学大学院理学研究科) 「昆虫から見た里山」

人が管理してきた里山は、人間の意図を越えて多くの昆虫の生息場所になっている。この昆虫たちの里山生態系における役割や、昨年から始まった「龍谷の森」での生物多様性調査について紹介する。

5/30 (月) 吉田 真 (立命館大学理工学部) 「クモ学者からみた里山」

私はいま日本蜘蛛学会の会長を務めています。学会ですから、基本的にはクモを研究する人たちの集まりですが、私は最近、クモ研究者がクモだけに目を向けていてはダメだと強く思うようになりました。クモという動物が生態系においてどのような位置を占めているかをもっと考えなければなりません。クモは、里山あるいは里山的な環境でもっとも多く採集されます。そのことは、クモの保全が里山の保全

と深く関わっていることを示唆しています。この講義では、あまり知られていないクモの生態を紹介しながら、里山保全との関わりを紹介します。

6/13（月）松居竜五（龍谷大学国際文化学部） 「南方熊楠と紀伊半島の森」

南方熊楠（1867-1941）はアメリカ・英国での学究生活の後、1901年から熊野の生態調査をおこなった。隠花植物を中心に紀伊半島の諸生物の連関を調査した熊楠は、日本で最初にエコロジーつまり生態系という概念を本格的に導入することになった。こうした熊楠の活動を、現在の紀伊半島のようにすと対比させながらとらえる。

6/20（月）鈴木 滋（龍谷大学国際文化学部） 「サルからみた里山」

さるかに合戦や桃太郎などの昔話にみられるように、サルは古来日本の里山に出没し、人々の生活にいろいろなかわりをもつ動物である。サルの性質は昔からほとんど変わっていないはずだが、サルと人の関係は時代とともに大きく変わってきた。そこで、サルの視点から、人間の生活をたどってみる。

6/27（月）小田将勝・原田浩二（大津市環境保全課） 「パートナーシップによる里山づくり」

今日的な環境問題へ対応するための大津市の施策およびその施策を推進する環境パートナーシップ組織である「おおつ環境フォーラム」の設立と役割について紹介する。その後、行政課題としての里山保全について示し、「おおつ環境フォーラム」による里山保全の活動や、大津市主催の環境講座の開催といった事例をとし、里山保全活動の方向と課題を考える。

7/4（月）脇田健一（龍谷大学社会学部） 「環境社会学からみた「里山」

ー市民・地元・行政の連携ー

近年、地元・市民・行政、この3者が連携することによって「里山」を保全しようという動きがみられるようになってきた。この講義では、このような里山保全をめぐる活動を通して見えてくる諸問題について検討していくことにしたい。

7/9（土）須藤護（龍谷大学国際文化学部） 「里山の民俗ー樹木の利用と里山の慣行」

里山に自生している草木を提示し、草木の特性について、さらに、それらが人々によってどのような形で利用されてきたのか、図を用いて解説する。また里山を利用するにあたって、人々はどのようなルールを作り上げてきたのかを実例をあげて話を進めていく。その中で日本人の伝統的なものの決め方や考え方を明らかにしていく。

学生からのコメント

■肯定的な意見

- ・実習が楽しかった。自分の机の上で物を書いているよりも実際に現地におもむく方が好きなのでこれからもこういった実習はどんどんやってほしいと思う。(複数意見)
- ・実習があり理解しやすく意欲的に受入れられた。
- ・たまに実際の山に入ったりしてとても楽しかったです。
- ・人と自然のつながりについて学ぶことができてよかった。けれど、もっと野生動物についても(どんな鳥が身近にいるかなど)教えてもらいたかった。実習がとても楽しかったので、もっと実習を増やしてほしい。この授業のおかげでテレビをつけていても「日本の里山」とか「滋賀の自然」といった言葉に敏感に反応するようになりました。自然が豊富な滋賀に来てよかったと思うようになりました。
- ・毎回専門的な教授がでてきて飽きない授業だった。
- ・毎回のレポートが興味深い内容でしたが、しっかりと取り組みなくて残念です。
- ・たくさんのレポートを熱心に出したのでよかった。
- ・多くの講義のなかでもっと多くのことを聞きたかったが、特別講義ということで2度は聞けなかったのが残念だった。多くの先生からお話が聞くことができてよかった。
- ・毎回先生が変わるということがとても新鮮だった。
- ・環境や自然に関する意見を多方面から聞けてよかったと思う。
- ・毎回出席しレポートも毎回出せた。

■改善意見

- ・毎回の担当者が変わって授業の中でダブるところがでてくるのを改善すべきと思う。(複数意見)
- ・毎回先生が違うということで、興味をもって聞ける授業とそうではない授業の差が大きかった。聞き取りにくい先生の講義もあった。毎回いろんな先生の話が聞けるといいうのは利点でもあり、欠点でもあったと感じました。
- ・学生が興味をもち分かるような講義を行ってほしい。共感がわくようなことを言うのもよいかもしれない。聞いていてもよく分からない講義のときはあまり聞いていなかった。
- ・リレー形式でいろんな角度から話を聞いたのはよかったのですが、その分内容が浅く、

理解できないことがあった。何人かの先生が担当制のほうがよい。(複数意見)

- ・先生が毎回毎回違いすぎて質問したいときにできないのがあんまりよくなかったかなあ。3~4人でまわっていくぐらいならいいかもしれない。
- ・毎回ちがう先生だったので、その先生によっていい授業と、あまり分らない授業があった。私は、1人の先生がずっと授業をする方がよくわかる気がした。
- ・毎回のレポート提出がたいへんだった。いろいろな話が聞けたが、90分という時間だったので早足で授業がすすんでいた気がする。
- ・毎回のレポートのテーマがあいまいなものが多かったです。もっと的をしぼってほしかった。
- ・毎週のレポートは辛かったです。授業内で感想を書くとかでもよかったのでは。
- ・講義の感想のレポートに困った。題材がほしかった。
- ・毎回レポートという形ではなく、学期末に全ての授業を通して一番興味のある話題について、詳しくレポートをするといった形の方が、深いレポートになると思う。
- ・チェーンレクチャーだったのでいろいろな話が聞けてよかった。まとめの講義があるとうい気がする。他の講義でも思うのですが、自分の書いたレポートが返してもらえたらうれしいのですが。
- ・講義があまりにも一方通行すぎたので、もっと質疑応答などの時間を設けてほしかった。
- ・実習はもっと充実してほしい。
- ・実習を増やすとよい。
- ・近くの龍谷の森があるのだから、もっとフィールドワークを行ってもよかったのでは？
- ・講師の方により、資料プリントが専門的でありすぎたり、字が細かくて読みづらいものだったりして、勉強しにくかったので、その点で簡単な資料であれば、もっとよかったと思います。
- ・シラバス以外に授業計画と先生の紹介等を授業開始後プリントにして配ってほしかった。
- ・もう少し時間配分を考えて進めてほしい。2限だったので延びたときに困った。
- ・板書などが少し見にくかったので、見えやすいようにしてほしい。
- ・教室が大きすぎた。後ろの方は見えづらかった。

② 共同開講科目特別講義

「里山学入門－自然のなかの人間・人間のなかの自然－」（2005後期・深草）

概要（リレー講義（フィールドワーク2回含む））

- 1) 9/30（金） 土屋和三（文学部）

「東アジアの里山（SATOYAMA）の植物と人」

「『龍谷の森』の生物多様性調査」

- 2) 10/7（金） 松倉文比古（文学部）

「日本人の自然観－植物的生命観－」

- 3) 10/15（土） 阪本寧男（前）国際文化学部・京大名誉教授）

「里山の民族生物学」

講義終了後、「龍谷の森」フィールドワーク①

※瀬田学舎開講、里山フィールドワーク

- 4) 10/21（金） 丸山徳次（文学部）

「里山の環境倫理－里山学のすすめ－」

- 5) 10/28（金） 龍口明生（文学部）

「仏教と森（アランニャ）とのかかわり」

- 6) 11/11（金） 好廣眞一（経営学部）

「里山のけものたちを調べる－センサーカメラによる『龍谷の森』の調査から－」

- 7) 11/18（金） 相良直彦（兼任講師・京大名誉教授）

「山を持つことの苦と愉しみ－大分県山国町における経験から－」

- 8) 11/25（金） 牛尾洋也（法学部）

「里山保全と法－土地所有権と景観保護の視点から－」

- 9) 12/2（金） 須藤 護（国際文化学部）

「中国雲南地方の農耕民族と里山－哈尼族の稲作と山の管理－」

- 10) 12/9（金） 岡崎晋明（文学部）

「縄文人と森との共生」

- 11) 12/16（金） 川戸修一氏（京都府農林水産部林務課計画指導担当係長）

「里山をめぐる新たな政策－モデルフォレストの取り組みに学ぶ－」

12) 1/13 (金) 増田啓子 (経済学部)

「里山の気候 - 『龍谷の森』の気象観測から-」

13) 1/20 (金) 須川 恒 (兼任講師)

「鳥獣行政・多様性保護と里山 - 里山保全の道具箱 -」

14) 1/21 (土) フィールドワーク<堆肥作り> (OP)

(2) REC関連講座

■REC京都

講義名: 「森を愉しむ-稲荷山篇-」

開 講: 7月2日 (土) 10:30~15:30 (全1回)

〔予備: 7月3日 (日)〕

担 当: 相良直彦

場 所: 京都市伏見区稲荷山周辺

講義名: 「森を愉しむ-松ヶ崎・深泥池篇-」

開 講: 10月29日 (土) 10:00~16:00 (全1回)

〔予備: 10月30日 (日)〕

担 当: 相良直彦

場 所: 京都市左京区

■REC滋賀

講義名: REC自然観察教室「身近な自然を観察する- [講義と実習] 自然観察の方法 -」

開 講: 4月16日 (土) 13:00~17:00 (全1回)

担 当: 横田岳人・宮浦富保

場 所: RECホール・瀬田文化公園

講義名: REC自然観察教室「身近な自然を観察する- [現地観察] 大文字山周辺の散策 -」

開 講: 4月23日 (土) 10:00~15:00 (全1回)

〔予備: 4月30日 (土)〕

担 当：横田岳人・宮浦富保

場 所：大文字山（京都市山科区・左京区）

講義名：REC自然観察教室

「身近な自然を観察する－〔現地観察〕愛知川河辺林の植物たち－」

開 講：5月7日（土） 10:00～15:00（全1回）

担 当：横田岳人・宮浦富保

場 所：愛知川河辺林（東近江市）

講義名：自然観察講座「峠道を行く（1）」

開 講：11月5日（土） 8:00～18:00（全1回）

担 当：宮浦富保・横田岳人

場 所：京都府京北町麁村八丁

講義名：自然観察講座「峠道を行く（2）」

開 講：11月19日（土） 8:00～18:00（全1回）

担 当：宮浦富保・横田岳人

場 所：滋賀県多賀町、岐阜県上石津町

講義名：自然観察講座「ハイキングコースで自然観察」

開 講：12月3日（土） 10:00～17:00（全1回）

担 当：横田岳人・宮浦富保

場 所：滋賀県能登川町、安土町、東近江市

講義名：親子自然観察教室「『龍谷の森』に住む昆虫を探してみよう」

開 講：10月8日（土） 10:00～15:00（全1回）

担 当：谷垣岳人

場 所：RECホール

講義名：親子自然観察教室「秋に鳴く虫を見てみよう聞いてみよう」

開 講：10月22日（土）10:00～15:00 （全1回）

担 当：谷垣岳人

場 所：RECホール